

いちのみの芸術文化

ICHINOMIYA Arts and Culture Association

■ 特集『貝殻旅行―三岸好太郎・節子展―』

■ 『エッセイ』色と形と遊びゴコロと

一宮美術作家協会／デザイン工芸部・彫塑部

百々 佳美

■ 第79回一宮市美術展(報告)

■ 一宮市芸術祭アルバム

■ これからの催し

1932年 三岸好太郎と節子、北海道工業試験場野幌分場にて
©MIGISHI

一宮市芸術文化協会

2021.12

第56号

一宮を学ぶ 特集

「一宮市」には、一宮市博物館・一宮市三岸節子記念美術館・一宮市尾西歴史民俗資料館など先人の残した文化を紹介する施設があります。私たちの「身近な文化」を学んでみませんか？

貝殻旅行

―三岸好太郎・節子展―

彗星の如く画壇に現れ、独自の詩情世界を描いた夭折の天才・三岸好太郎（一九〇三―一九三四）。女性洋画家の先駆的存在として茨の道を切り拓いた文化功労者・三岸節子（一九〇五―一九九九）。洋画史上最も名高い画家夫妻の出会いからまもなく百年を迎えることを記念し、二〇二一年から二〇二二年にかけ、三十年ぶりの夫婦展「貝殻旅行―三岸好太郎・節子展―」が全国巡回しています。

「貝殻旅行」という聞き慣れない、それでいてどこかノスタルジックな展覧会名。今回はその名の由来についてご紹介します。

二人の出会いと結婚生活

札幌の貧しい家に生まれた好太郎と、起町（現一宮市）の裕福な大地主の家に生まれながらも、十五歳で実家の倒産という没落の辛苦を味わった節子。ともに洋画家を目指し一九二二（大正十）年に上京、翌年同じグループ展に出品した

ことで二人は出会い、一九二四（大正十三年）に結婚します。三人の子宝に恵まれたが、浪費や女遊びといった家の外での刺激を芸術の糧とする好太郎に、節子は幾度となく苦しめられ、家計は困窮を極めました。国内外の最新の動向を敏感に察知し次々と作品を生み出す好太郎に対し、節子は家事や育児、さらには義母や義妹の介護に追われながら、歯を食いしばり堅実に家の中で制作を続けました。



▲1932年、左に節子、右に好太郎、間に3人の子ども ©MIGISHI

貝殻旅行

一九三四（昭和九）年三月、これまで目まぐるしく作風を変遷させてきた好太郎が到達したのは、「蝶と貝殻」の連作でした。そのうちの一点、《のんびり貝》が思いのほか高値で売れると、同年六月上旬、好太郎は節子を数日間の間

西旅行に連れ出します。京都、奈良、大阪、神戸と巡る、最初で最後の夫婦水入らずの旅行でした。

その帰途、六月十三日に名古屋まで戻ると、そこで好太郎は節子を先に東京へ帰し、自身は名古屋に残りました。名古屋市中区御幸本町（現中区錦）にあった「銭屋」という旅館が、好太郎の名古屋の常宿でした。六月十七日、画家仲間が好太郎の客間を訪ね、のちに次のように回想しています。



▲三岸好太郎《のんびり貝》1934年 北海道立三岸好太郎美術館蔵

「今度は独立展に出品した『貝殻』が売れたんで、こんな時で無いと駄目だと思つて、東京から節子呼んで、京都、奈良を充分観させたよ。貝殻旅行だよ！節子は始めて（原文ママ）なんで、法隆寺は、とても喜んでなア。

……と云つて三岸さんは実に美しい顔をした。（中略）楽しそうな相好、子供の様に喜んで居た。私は三岸さんがこんな美しい顔をした事を見た事が無い。（中略）三岸さんは十何年かの苦しい作家生活、始めて、貝殻旅行をして、奥さんにも充分旅行させたことに嬉しくなつたん

だ。(中略)生涯で一番楽しい貝殻旅行であったのだ。〔注1〕

《のんびり貝》が売れたおかげで実現した念願の夫婦旅行を、好太郎は「貝殻旅行」と呼び、心から楽しんだようです。

好太郎が遺した絶筆

しかしながら六月二十八日、好太郎は旅館で吐血します。一通りの手当てを受け一時は容態が安定しましたが、三十日に急変し心臓発作を併発、七月一日に三十一歳の若さで還らぬ人となりました。

「コウタロウシス」の電報を受け、翌日旅館に駆けつけた節子は、部屋の壁に茶色の水彩一色で描かれた一枚の女の顔のデッサンを見つけました。それはまぎれもなく節子の顔でした。貝殻旅行の汽車の中で、好太郎は節子に「この次は線の太い、たくましい絵を描く。絵具もウンと盛り上げて、烈しい健康な絵だ」と語っていました。節子はこの絶筆となったデッサンを見て、「ああ、これが彼の言っていた強い絵なんだな」と悟り、彼女もまた涙ながらに夫の死に顔をスケッチしました。

「数多の女の顔は次から次へとおびただしい量で生みだされたけれども、私はこの絶筆を抱いてアトリエに帰り必々良人が画家であってよかった。」

た、この一枚のデッサンは千万無量の感慨へ誘うもので、どれ程の対話を私は彼と交へたことであろう。〔注2〕

貝殻旅行の道中、好太郎は節子にこうも語ったといひます。「俺の生命線はあと一週間で切れている」「俺の家はいいなあ。お前が絵を描くから、俺が死んでも困らんじゃないか」「俺が死んだら、絶対恋をしろ。恋をしなくちゃいい絵が描けないぞ」と。自身の死期が迫っていることを予感していたのか、奔放な生活で散々節子を苦しめたことへの罪滅ぼしと、最後は最愛の妻と一緒に過ごしたいという思いから、好太郎は貝殻旅行を企画したのかもしれない。



▲好太郎の《女の顔(絶筆)》を見る三岸節子(1980年代後半)
大磯(神奈川県)のアトリエにて
撮影 林寛子(聞き書き 林寛子『三岸節子 修羅の花』講談社 1989年)

のちに節子は好太郎芸術の復権を図るため、一九六七(昭和四十二年)に遺作二百二十点を北海道に寄贈しますが、この絶筆だけは手放すことなく、晩年まで自邸に飾っていました。そして二〇二一年、「貝殻旅行―三岸好太郎・節子展」に合わせ、遺族から北海道に寄贈されました。

好太郎の最後のモチーフ「蝶と貝殻」、節子の最後の大作《さいたさいたさくらがさいた》、そして二人の絶筆までもが揃った三十年ぶりの夫婦展「貝殻旅行」。当館では二〇二二年二月十九日から四月十日まで開催しますので、どうぞご覧ください。

(一宮市三岸節子記念美術館 学芸員 長岡昌夫)



▲三岸節子《さいたさいたさくらがさいた》1998年 当館蔵
©MIGISHI

(注1)『美術雑誌アトリエ』1934年8月号
(注2)三岸節子編『別冊アトリエ 三岸好太郎 秘められた画帖』1956年

色と形と遊びゴコロと

一宮美術作家協会／デザイン工芸部・彫塑部 百々 佳美

今春、東京の国立新美術館で「佐藤可士和展」が開催されました。ユニクロや今治タオルなど多くの企業ロゴやブランディングを手掛ける佐藤氏は、憧れのクリエイティブディレクターです。新型コロナウイルス対策で緊急事態宣言が発出され、残念ながら会場を訪れることはできませんでしたが、図録を購入し家で楽しく観賞しています。

佐藤氏の作品に憧れるきっかけとなったのは、2000年に手掛けられたSMAPのアルバム「Smap」のプロモーションデザインです。赤・青・黄の三色で構成されたデザインは、その年のデザイン賞を総なめにしました。当時はもちろん、今見てもカッコよくてワクワクします。このデザインについて佐藤氏は、「色で表現するのが一番単純で綺麗で強い」と語っています。その力強さに惹かれ、私も作品に原色をよく用いて表現しています。



グループ展告知用デザイン 制作テーマ「ツナガル」(2014年)

自身の活動は、パソコンで作品を制作し、グループ展や美術館へ出品しています。制作は、まず気になっているモノや事柄、もしくはその時の心情などからメインとなる形をイメージし、パソコン上で描いていきます。その形をもとにテーマを決め、レイアウトを考え、色を乗せていきます。



第25回グループ展 参加作品「25」(2021年)

作品制作で大事にしていることは、色と形の配置とバランスです。色と形の組み合わせによって作品の印象が変わるので、パズルを完成させるような面白さがあります。とは言え、なかなか最初のピースが埋まらず、いつも出品期限ギリギリとなってしまうのですが、一つ定まると堰を切ったように勢いづき完成にグッと近づきます。その瞬間が気持ちよく、悶々とした時間が長ければ長いほど大きな喜びを感じます。



青山芸術祭 参加フラッグ (2009年)



作品制作ではもう一つ、遊び心を意識しています。遊び心が加わると、作品に個性が宿る気がします。「色」「形」「遊びゴコロ」すべての要素が力チツと噛み合ったとき、発信力のある作品になるのではと思います。なかなか揃えることができませんが、見てくださる方に少しでもワクワクしてもらえらるような、発信力のある作品を目指して、今後も創っていきたいと思います。

第79回

一宮市美術展

11月11日(木)～14日(日)まで、一宮スポーツ文化センターで「第79回一宮市美術展」が開催されました。

市内を中心に近隣市町村や県外からも多数作品が寄せられ、審査の結果、入賞となった146作品をはじめ442作品が展示されました。

期間中は、約3700名の方々が来場され、作者の熱い思いが詰まった作品を熱心に鑑賞されていました。また、金曜日は終了時間を午後7時まで延長し、仕事帰りの方などが来場されました。

昨年は中止となった種目別解説は感染症対策をした上で行われ、来場された方々はとても熱心に耳を傾けていました。

各部門で市長賞、教育委員会賞、市制100周年記念特別賞を受賞された方は以下のとおりです。なお、同一種目内での掲載順は順不同です。
(敬称略)

市長賞受賞作品は一宮市博物館の企画展「2021一宮市現代作家美術秀選展」(12月4日(土)～19日(日))でも展示されました。

日本画

市長賞

王 冠賢

教育委員会賞

吉田 眞弓

市制100周年記念特別賞

坂倉 敏雄



日本画部門解説
(久世直幸さん)

洋画

市長賞

大島 勘一 丹慶 哲宏

中田 世津子

教育委員会賞

河村 正子 橋本 悦司

福岡 ゆらり

市制100周年記念特別賞

小玉 君子 島津 秀典

森 未萌

彫刻・立体

市長賞

ヒサオ・カメヤマ

教育委員会賞

堀部 美奈子

市制100周年記念特別賞

中原 可南子



彫刻・立体部門解説
(櫻井真理さん)

工芸

市長賞

松岡 里奈

教育委員会賞

小崎 千恵子

市制100周年記念特別賞

伊藤 光江

デザイン

市長賞

北野 愛珠

教育委員会賞

塩澤 香苗

市制100周年記念特別賞

山田 美保子

書

市長賞

大橋 溪煙 佐合 華婉

林 華静

教育委員会賞

永田 張羽 宮田 苔華

村上 桂峻 村瀬 紫苑

市制100周年記念特別賞

小川 香風 後藤 柳月

高松 彩月

写真

市長賞

安藤 貴紀

教育委員会賞

安藤 雅彦 谷 覚美

山内 敏且

市制100周年記念特別賞

橋本 秀子



写真部門解説
(夫馬勲さん)

第76回 一宮市芸術祭

開催報告(9・10月分)

音楽部

吟道関心流 令和3年度連吟・合吟コンクール



9月23日(木・祝)
アイプラザ一宮
吟道関心流真和支部

一宮シティ合奏団 第27回定期演奏会



10月17日(日)
尾西市民会館
一宮シティ合奏団

第21回一宮市民音楽会



10月31日(日)
尾西市民会館
一宮第九をうたう会

第48回一宮音楽家協会 定期演奏会



10月31日(日)
木曾川文化会館
一宮音楽家協会

美術部

一宮写真協会選抜写真展



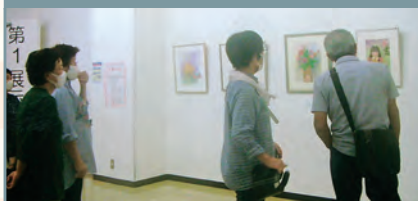
9月25日(土)～10月3日(日)
博物館
一宮写真協会

第17回あざみの会絵画展



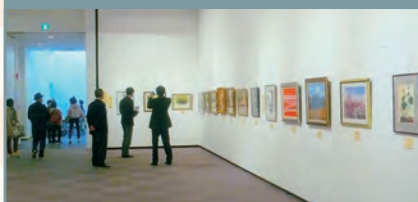
9月30日(木)～10月3日(日)
一宮スポーツ文化センター
あざみの会

土筆の会展



10月7日(木)～10日(日)
一宮スポーツ文化センター
土筆の会

第18回尾西展



10月28日(木)～31日(日)
三岸節子記念美術館
尾西美術連合

文学部

狂俳大会



10月9日(土)
葉栗公民館
一宮狂俳壇連盟

一宮現代詩祭



10月24日(日)
一宮スポーツ文化センター
一宮現代詩協会

いちばん
だいすき。
一宮

第37回一面会 能・狂言面作品展



10月28日(木)～31日(日)
アイプラザ一宮
一面会

文化講演会を開催



10月16日(土)に尾西市民会館において、井沢元彦さん(作家)に「混迷を生き抜く術とは」歴史を動かした人物に学ぶ」をテーマにご講演いただき、187名の方が参加されました。

『いちのみや文芸』を発刊

10月16日(土)に「いちのみや文芸第50集」を発刊しました。随想・随筆、現代詩、漢詩、短歌、俳句、狂俳、川柳の7部門あわせて248名の方から寄せられた1945作品を掲載しています。ぜひ一度、手に取ってお読みください。価格は1冊800円です。ご希望の方は事務局(市教育委員会生涯学習課)までお尋ねください。

愛知県文化協会連合会の

催し(報告)

愛知県文連美術展

9月22日(水)～26日(日)、愛知県美術館ギャラリーにて第46回愛知県文連美術展が開催されました。

本協会からも6名の方が出品され、森茂正さん(洋画部門)が奨励賞に選ばれました。

表彰おめでとうございます

～一宮市表彰条例による表彰～

一宮市は9月1日(水)に市制施行100周年を迎えました。当協会の4名の方が、長年にわたる文化振興への功績を讃えられ、一宮市長より表彰を受けました。また、12月1日(水)に一宮市民会館で開催された式典で、受賞者の功績が披露されました。心よりお喜び申し上げます。

(敬称略)

副会長 三輪清弘(洋画部門)
理事 鵜飼辰郎(デザイン工芸彫刻部門)
理事 浅井英仁(吹奏楽管弦楽部門)
元理事 青木小代子(詩部門)

文化情報



「鶏頭」

高橋 弘子

加入団体の

催し

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、掲載している催しや教室などは中止・延期等になる場合があります。開催状況は、問合せ先へお尋ねください。

『狂俳月例会』

【問合せ先 一宮狂俳壇連盟】

☎(78)5002

日時▼1月8日(土)・2月12日(土)

3月12日(土) 午後1時～

会場▼葉栗公民館

内容▼各自10句持参、互選により

優秀作を記録に残します。

(初心者歓迎)

参加料▼無料

『市民短歌教室』

【問合せ先 真清短歌会】

☎(51)3570

日時▼1月9日(日)・2月13日(日)

3月13日(日) 午後1時～

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼真清短歌会委員により実作指導します。(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼初参加の方は開催日の5

日前までに電話で生涯学

習課(☎(85)7074)

『市民俳句教室』

【問合せ先 一宮市民俳句教室】

☎(73)0282

日時▼1月16日(日)・2月20日(日)

3月20日(日) 午後1時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼当季雑詠2句を一宮市民

俳句教室委員が指導しま

す。(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼開催日の前月末(必着)

までに参加希望日・当

季雑句2句(初参加の

方は希望者だけ)・郵便

番号・住所・氏名(ふ

りがな)・電話番号・参

加経験の有無を記入し、

ハガキ〒491-8501 本庁

舎生涯学習課)

『瀟聲會作詩教室』

【問合せ先 一宮漢詩瀟聲會】

☎(78)7953

日時▼1月18日(火)・2月1日(火)

3月1日(火) 午前10時〜

会場▼中央図書館

内容▼漢詩文の作り方の指導を

はじめ、持ち寄った創作

詩の添削の検討を会員間

で行います。(初心者歓迎)

参加料▼年3000円

申込み▼当日直接会場

『瀟聲會漢詩講読会』

【問合せ先 一宮漢詩瀟聲會】

☎(78)7953

日時▼1月29日(土)・2月26日(土)

3月26日(土) 午前10時〜

会場▼中央図書館

内容▼漢詩文の基本的な読み方

をはじめ、作者の時代背

景にも触れながら初めて

の方にも分かりやすく

「唐詩三百首」を解説し

ます。(初心者歓迎)

講師▼三島徹さん(東洋文化振

興会会長)

参加料▼月2000円

申込み▼当日直接会場

『市民川柳教室』

【問合せ先 一宮川柳社】

☎(44)7598

日時▼1月23日(日)・2月27日(日)

3月27日(日) 午後1時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼自由吟および課題吟を一

宮川柳社委員が指導しま

す。(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼初参加の方は開催日の

5日前までに電話で生

涯学習課☎(85)70

74)

『新年短歌会』

【問合せ先 真清短歌会】

☎(51)3570

日時▼1月23日(日) 午後1時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼事前募集した中から互選

により優秀作を表彰しま

す。

参加料▼500円(見学無料)

申込み▼1月10日(月)までにハガ

キにて雑詠一首提出

『令和3年度(公社)中部日本書道会 一宮支部講演会』

【問合せ先 (公社)中部日本書

道会 一宮支部】

☎090-8130-0713

日時▼2月27日(日)

午後3時30分〜4時45分

会場▼一宮スポーツ文化センター

演題▼「船橋物語〜美濃路と各

地の船橋の歴史」

講師▼神田年浩さん(一宮市博

物館学芸員)

入場料▼無料(一般聴講歓迎します)

申込み▼当日直接会場

『花柳流喜美会最終回公演 60周年記念』

【問合せ先 一宮舞踊協会喜美会】

☎(72)5660

日時▼3月21日(祝)

午前11時〜午後5時

会場▼一宮市民会館

内容▼「祭の花笠」「浅妻船」他

二十数演目を発表します。

入場料▼無料

申込み▼当日直接会場



『箏演奏会』

【お箏で綴る今昔物語】

【問合せ先 脇田会】

☎(87)1094

日時▼2月27日(日)

午後1時〜3時30分

会場▼木曾川文化会館

入場料▼無料

申込み▼当日直接会場

【題 字】武 山 翠 屋
【編集・発行】一宮市芸術文化協会

【連絡先】一宮市芸術文化協会事務局(市教育委員会生涯学習課内)
〒491-8501 愛知県一宮市本町2丁目5番6号
TEL 0586-85-7074 / FAX 0586-73-9213